



2011年度修士論文要旨

その他のタイトル	Vorstellung der Magisterarbeit 2011
著者	宮田 侑季
雑誌名	独逸文學
巻	57
ページ	145-146
発行年	2013-03-20
URL	http://hdl.handle.net/10112/00017997

2011年度修士論文要旨

宮田 侑季

中高ドイツ語の接続詞について

接続詞はドイツ語史において機能、形態ともに大きく変化した品詞の一つであり古くから多義性が多く指摘されている。特に中高ドイツ語時代には接続詞同士の競合や音と意味の合流など大きな変化が起こること現代ドイツ語の接続詞へと形作られていった。

本論では中高英雄叙事詩『ニーベルンゲンの歌』の中に出てくる *dô*、*sô*、*dâ* を中心に分析しこれらが中高ドイツ語時代にどのように機能しその後接続詞が時代の流れとともにどのように変化していったのかを見た。

まず、ヘルマン・パウル著『中高ドイツ語文法』(Hermann Paul, *Mittelhochdeutsche Grammatik*, Niemeyer 2007) によると接続詞 *dô* は過去の一時点を表す *als*、*indem*、または *nachdem* に相当し、場所を表す *dâ* と区別がなされていた。

次に *dâ*、*dar* は上記でも述べたように場所を表すが、中高ドイツ語時代においてすでに副詞 *dâ* は *dâ nâch* のように代名副詞を作ることの時を表すことができた。また *dar* はすでに Otfrid によって関係副詞として機能しており、その場合 *dâ* は時を表す働きをしていたが、場所の *dâ*、時の *dô* の区別は一貫して保持されていた。新高ドイツ語 *da* は場所の副詞 *dâ*、古高ドイツ語 *dâr*、時の副詞 *dô* の間の音声の発達や意味の接近に基づいて合流して生じた。

最後に *sô* は現代ドイツ語 *als*、*wenn*、*sowie* の意味で用いられ、古くから先行文を指示する機能、従属の意味を持っていた。さらに *sô* は比較の接続詞 *wie* 「~のような」としての機能を持っていたが、後に *sô* のヴァリエーションである *alsô* もその機能を果たすようになった。*alsô*、*als* は *sô* に強調の *al* をつけて生じたもので、現代ドイツ語 *sowie*、*als* の意味で用いられている。この機能は現代ドイツ語 *sowohl – als*、*als ob*、

als wenn の形で残っているほか als ob、als wenn と同じで als 単独の用法もある。

『ニーベルンゲンの歌』における dô、sô、dâ を考察した結果、dô は過去の一時点「～したとき」を表す現代ドイツ語 als の意味としてのみ用いられている。dâ の場合、場所を表す副詞または関係副詞として用いられており、場所を表す関係副詞 dâ は後に wo に取って代われ、副詞としての機能が残った。また dar は現代ドイツ語では単独の形では残ってはいないが、代名副詞として dar と前置詞を組み合わせる形は残っている。sô のヴァリエーションである alsô、als は、nhd.wie 「～のような」に相当し、接続詞として機能しているのはもっぱら sô である。

かくして中高ドイツ語時代における接続詞は競合、統合を経て現在の形になったのである。